

〔紀行文〕

たの かみ
滋賀県田上山の今昔

鹿本高 藤 本 雅太郎

田上山は岐阜県の苗木、福島県の石川とならんで日本の三大鉱物産地の一つとして古くから知られているところである。筆者は昭和46年夏、田上山を訪れることが出来たので文献で知り得た過去のこととあわせて最近の様子を紹介したい。ただし私が訪れた時は台風23号の接近で山に登ることが出来なかったのも、近況といっても田上山にある鉱物博物館の紹介と、田上を詳しく知っておられる方から聞いた最近の様子をまとめたものである。

徳川時代にあらわされた近江之國大絵図に名物田上水晶として示されているそうであり、また雲根志を書いた木内石亭が、田上産のトパツの巨晶を石山寺に奉納したことがわかっており、この頃すでにこの地に美しい鉱物が産することは知られていた。

下って明治の中頃、米人のゲンスという人がトパツを大々的に採集して海外に輸出したということであるが、故老の話では1度に5斗入カマス5俵も搬出されたということで、

かつて市ノ川鉱山から輝安鉱のすばらしい結晶を多産したこととあわせて、今から思えば夢のような話である。明治・大正の有明な鉱物学者－和田維四郎、高壮吉、比企忠諸先生など相ついでこの地を訪れ研究されたということである。

京都の栗田焼の原料である陶土を出しておられた故上野滝蔵氏が、ままたま田上山よりすばらしい隕鉄を発見（現在、国立科学博物館に展示してある）したことから鉱物に興味をおぼえられ、田上の鉱物を採集販売するようになってから一般人にもこの地の鉱物について興味を持たれ出したということである。

このようにして明治37、8年頃を最盛期として産出量は次第に減じ、田上の名も次第に忘れられようとしていたとき、大正4年4月、砂防工事中に人夫たちがベグマタイトの大晶洞を発見し、梯子をかけてこの中から鉱物を搬出した。晶洞より産したトパツは長さ4寸5分、正長石でバベノ式双晶をなすものは4寸4角長さ1尺もあったということで、

人夫たちは鉱物を売った収益金で3日2晩、飲めや歌えの大散財をしたというエピソードが残されている。

大正末期から昭和の初めにかけて採集や研究のため多数入山する人あり、放射性鉱物、希元素鉱物も新しく発見されたが、その後だんだんと砂防工事の進展につれ産出量が減じ最近では川流れ、つまり転石を運が良ければ採集できるという位になってしまっているそうである。

砂防工事により産出が減じたということは山に植林がおこなわれた為、ペグマタイトを発見するのが困難になったからである。昔は山を遠望してペグマタイトの脈がわかったそうであるが、木が密生してくるにつれ脈の発見が困難になるのは当然である。その他、採集がすすんだ為、晶洞そのものの絶対数も当然少なくなっているのであろう。

昭和40年、田上山の一角、笹間ヶ岳に水晶を採集しに行った3人の中学生によって、新しく球状花崗岩の露頭が発見されているが、それまで多数の人が長年月にわたりこの山を訪れているのに球状花崗岩の存在がそれまで全くわからなかったということは、田上山の鉱物も熱心に探せば、まだまだ探りあてる可能性があることを教えてくれる。

田上山産の鉱物(別表参照)は田上鉱物博物館に展示されている。この館は中司稔先生が自費で建設された私立博物館である。先生は大正時代から田上を歩かれ田上山の主と言われている方で、小学校長を定年退職されたあと館を開設(昭和38年)された。

館内の陳列窓の中にはトパツ・緑柱石・煙

水晶・長石・電気石・チンワルド雲母等の結晶が所せましと並べられ、これらに対応してこれら鉱物を包蔵する花崗岩中の晶洞が壁面に写生されている。また館の奥には田上花崗岩地帯の大地図を掲げ、これを西より東に四地帯に分ち、これらの地帯より産する鉱物種の組合わせや晶相に特性ありとして、I~IVの四鉱物区に分けてあるのは中司先生の創意によるものである。

本館は田上産ペグマタイト鉱物のみでなく岐阜県苗木地方、福島県石川地方、山梨県金峯山地方のような本邦屈指のペグマタイト鉱物産地の標本も比較のため蒐集展示されている。我国に近時出来つつある博物館や理科教育センター等において地学標本の陳列は珍しくないが、これらは間口は広いが奥行がないのに対し、本館のようにペグマタイト鉱物専門の奥行の深い博物館はちょっと他に類に見ない特異な存在であろう。そのほか故岡本要八郎先生はじめ全国各地の鉱物愛好の士より寄贈された一般の標本も展示されている。館は鉄筋コンクリート造りの瀟洒な建物で、先生の鉱物を熱愛される心と田上産標本の散逸を防ぐ目的で資産を傾注されて建設されたのであろう。

博物館に行くためには、国鉄京都駅より上り東海道線に乗車して4つ目の石山駅で下車駅前より帝産バスの新免(しんめ)行、又は牧口行に乗車して約20分、枝で下車すれば徒歩数分で行くことができる。なお途中に石山寺があり、この境内には天然記念物指定の硅灰石の露頭があるのでこの見学も忘れてはなるまい。

館の住所 大津市田上枝町 中上鉱物博物館

〒520-22 Tel 46-0163

田上山産鉱物

水晶、正長石、黒雲母、白雲母、チンワルド雲母、トパツ、ザクロ石、金紅匠、スズ石、重石、電気石、モナツ石、緑柱石、輝水鉛鉱、イットロタンタル石、ジルコン、ガドリ石など
24種